

2月6日(金)の夜、須玉ふれあい館の会議室にて、第4回「中部横断自動車道活用検討委員会関係者ワークショップ」を開催しました。登録31名のうち、18名にご参加いただきました。

まずは前回の振り返りをした後、中央道の道路構造課題について、事務局から補足説明しました。次に、道路を活かす道路構造の提案をグループごとに検討し、結果を全体の場で発表していただきました(P2~)。続いて2月15日(日)に行われる市民ワークショップのプログラムを確認し、議論すべき課題について全体で検討しました(p4~)。また、関係者ワークショップのとりまとめと、事務局で整理する道路プランの方針について事務局から説明し、ご意見を伺いました(p4~)。最後に、各自ご意見カードにご記入いただき(p5~)、第4回のワークショップを終了しました。

この4回の関係者ワークショップで共有化できたことは、自然環境、歴史環境の全体が北杜市の誇れる地域資源であり、この資源を活かす日本一の道路を作りたいというみなさんの思いでした。来年度は、北杜市の皆さんや北杜市が、この道路を活かしてどのようにまちづくりビジョンを実現していくかをテーマに話し合う予定です。引き続きよろしくお祈いします。

＜第4回プログラム＞

- 1：はじめに 前回の振り返り
- 2：中央道の道路構造課題について補足説明します
- 3：中部横断自動車道を地域に活かす提案を考えます
- 4：市民ワークショップのプログラムについて検討します
- 5：ワークショップ(道路プラン)のまとめ方について確認します
- 6：まとめ

4つのグループに分かれて、道路を活かす道路構造について話し合っていました。



ワークショップの目的

「北杜市まちづくりビジョン」の具体的な方策や取組となる『道路プラン』は、地域住民にとって身近な事象であるとともに、行政が真摯に取り組まなければならないことであり、『市民の取組プラン』は、地域住民自らが主体となって取り組むものであることから、これらに対して積極的な姿勢をもつ地域住民の参加が可能となるワークショップ形式で実施する。



北杜市中部横断自動車道活用検討委員会・ワークショップの関係

北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

- ・ワークショップの手法について審議
- ・ワークショップから提案された道路プラン、市民の取組プラン等の意見(結論)について審議・確認・補足する。
- ・結果を北杜市長に報告する。

- 主な審議事項
- ・ワークショップの進め方(枠組み)
 - ・ワークショップの回数
 - ・ワークショップのテーマ
 - ・ワークショップでの検討結果の審議等

検討方針
提示

検討方針
報告

ワークショップ

専門性・実効性

関係者ワークショップ(公募)

- ・産業、観光などの専門知識を持った方がアイデアを出す。
- ・今後の市の産業・活動を担う世代が、責任を持って考えを述べる。

一般性

市民ワークショップ(無作為抽出)

- ・関係者ワークショップで出された様々な意見や対応案などについて一般的な立場としての市民が議論し、考えを述べ、補足や追加意見を述べる。
- ・ワークショップとしての意見をよりよくするために実施

広報活動
(広報誌、回覧、ハガキ、HP等)

情報発信

意見提出

地域住民

※関係者ワークショップ、市民ワークショップに優劣はない。

中部横断自動車道を地域に活かす提案を考えます

道路を造ることで地域にプラスを生み出すような道路構造、関連施設に関する提案をグループで検討し、全体の場で発表していただきました。 () はグループ番号

| | |
|--------------|---|
| 利便性の高い道路 | <ul style="list-style-type: none"> ●高速道と一般道からアクセスできる場所が欲しい。(駐車場、チェーン脱着(雪対策)、地域交流、休憩できる、ヘリポート(砂が舞わない))(A) ●使われなくなった公共施設(統合による学校等)を有効利用したい→そこへのアクセスを考えてもらいたい。(C) ●既存施設とのジョイントに留まらず、横断道が出来ることによって活かせる新たな施設等を並行して公募したり考えてみては！(D) ●インターチェンジを多く設置して、地域のいろいろな場所へ立ち寄りやすく。(D) |
| 防災・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ●高根総合グラウンドを防災拠点とするよう、インターチェンジをつくって欲しい。(A) ●命の道であってほしい。(A) ●ドクターヘリが下りて、すぐにアプローチできる緊急時のICを整備する。(C) |
| 観光 | <ul style="list-style-type: none"> ●花の森公園に直接アクセスできる道路構造にする。(A) ●花の森公園にアクセスし易い場所にインターチェンジをつくって欲しい。(A) ●道の駅の有効利用。アクセス道路の整備。(C) ●春夏秋冬、四季を感じられる道路。(B) ●車を降りて歩きたくなる道路。パーキングスペース+フットパス。(D) ●通過客を減らす工夫。美しい景色を見せる場所を造り、高速道路から出てくるようにする。(D) ●各観光スポット等を関連づけたストーリー(物語)を作り、そのコースに合ったインターに直結する下道を構想しては！(D) ●市民の取り組みをアピールした注目される道路。 「八ヶ岳高速マラソン大会」「八ヶ岳高速ウォーキング」「八ヶ岳高速サイクリング大会」が出来る健康体育道路。(B) →図参照 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> </div> |
| 環境・景観、自然への配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ●景観を生かすために盛土高さを低く(一般道を半地下に)した道路。(B) ●盛土法面の植栽は高木にならない品種、周りの植生に影響を与えない品種を選ぶ。(C) ●盛土部で工夫。4車線分買収して、暫定2車線で供用する場合は、片側でなくセンターに通して、両側を緩衝地の緑地帯にする。(C) ●高速道路建設によって失われる森林面積分は、道路沿いにグリーン・ベルトを広く設けて、緑の回廊を確保する。(D) ●道路脇にはフクロウの交通事故防止用フェンスやネットを設置する。(D) ●道路の排水を浄化して、河川に流すために、小規模なビオトープを造る。(D) ●燃費の計測を車と通信で行い、長坂~清里間、燃費表示が出来る電光掲示板を設置し、ドライバーのアクセルダウンの意識をいざなう。(B) ●ボックスカルバートの色を景観に合った色で施工できないか。(C) ●道路照明を高欄埋込型にして、夜空に拡散しないようにしてほしい(橋梁、IC付近など)。(C) ●南側から北側を見ると構造物が目立つので配慮してもらいたい(八ヶ岳南麓は南斜面なので、北を見上げることになるので)。(C) ●国道141号東側にできる橋梁は、八ヶ岳をバックで見映えのあるものにし、その橋をながめる簡易駐車場を整備する。(C) ●道路建設とあわせた電柱、電線の地下埋設。(D) ●シンプルでベーシックなデザイン。周辺環境が主役。道路は脇役。(D) |

Aグループの発表から

- 花の森公園の直売施設を含め、いろんな施設の利用価値が上がるように直接アクセスできる、立ち寄れる道路構造にする。
- 防災拠点と近いところ、連結ができるところにインターチェンジを造ってほしい。
- 中部横断自動車道は生活に密接な道路であってほしい。高速道路と一般道からアクセスができる場所に、チェーン脱着や地域交流が出来る、広い駐車場があれば良い。特に大きな施設はいらぬ。そこにヘリポートがあって、ヘリが発着できる、緊急時におけるサポートができるところが欲しい。そこでは、農家の方が農産物を売ったりできるような、自由なフリー広場が出来れば良い。
- 抽象的だが、道路は命を救う、命の道であってほしい。



Cグループの発表から

- ボックスカルバートの色を周りの色とマッチするような色にしたい。
- 使われなくなった公共施設をうまく利用できるように、アクセスを考えてもらいたい。
- 旧秋田小学校から北側を見ると、中央自動車道の遮音壁が白く目立ち分断されている意識が強い。なるべく目立たない、ハヶ岳のてっぺんから裾野まで分断されないような形で高速道路ができないか。
- ドクターヘリがアクセスできる駐車場を設け、緊急時に対応できるようにしたい。
- 暫定2車線であれば真ん中を走行し、両側は緑の緩衝地帯とすれば音を含めて周りへの影響が少なくなるのではないかな。
- 須玉川を横断する橋は見映えのある、景観に配慮した橋にして、下りて見渡せるような駐車場を整備していただきたい。

Bグループの発表から

- 既存の道路の役割だけにとらわれず、日本一の道路、日本一面白い道路を造りたい。
- 盛土や遮音壁の高さを低くしたい。また一般道を半地下にしたような構造が造れないか。
- 歩車道分離の道路にして、車の走る脇でマラソン大会などができるようなスペースを設ける。例えばサービスエリアを起点に清里までの上り下りを使ってウォーキング大会、マラソン大会、自転車大会等のイベントを起こせば、集客ができるのではないかな。
- 車には燃費走行表示を通信で電光掲示板に映して、「あなたは今日のナンバーワンです」という表示をすれば、上り坂でアクセルワークを緩めるなど、騒音防止に役立つと思う。
- いかに早く車を通すかではなく、地域資源として造ったらどうか。ノルウェーのアトランティック・オーシャンロードは、周辺の山並みに合わせた曲線のある美しい道路や橋を造っていて、世界中の人たちが見に来るといふ。日本一走ってみたい道路である富良野道路も、両側が雑木林で景観が素晴らしく、いろんな技術的な工夫がされている。この道路を単なる通過する道路ではなくて、ここを元気づけるような風に造ったらどうだろうか。
- 日本中、世界中から「この道路はすごいな」といふ道路を造ってほしい。

Dグループの発表から

- 地域のいろいろな場所に寄るためにも出入口が多い方が良い。
- 道路上の排水を、浄化して河川に流し込むために、小規模なビオトープを造ってほしい。ヨーロッパのアウトバーン沿いにはある。
- フクロウの交通事故を防ぐためには道路脇に高いフェンスを設置してほしい。
- 高速道路の建設によって失われる森林面積は道路沿いにグリーン・ベルトを広くもうけて、緑が減らないような工夫をしてほしい。
- 観光客の通過を防ぐために、高速道路からは美しい景色を見せない。もっと見たかったら高速道路から下りてきてもらうことで観光にもプラスになると思う。
- パーキングスペースとフットパスを組み合わせ、車から降りて歩きたくなるような道のデザインが面白いのではないかな。
- 電柱、電設の地下埋設と併せて、周辺景観をより美しくする。主役は周辺景観なので、道路は引き立て役になれば良い。
- 観光スポットそれぞれの点をを線にするような、足を向かせる物語を作る必要がある。
- この道路ができることによって今までにないような施設も考えて取り入れていったらどうか。今あるものにこだわらない。

市民ワークショップのプログラムについて検討します

2月15日(日)に行われる市民ワークショップのプログラムについて、全体で検討しました。

参加者 1 : 我々はこれまで4回参加して、今日も振り出しに戻ったような意見も出ている。市民ワークショップは一日、午前9時から午後4時までだが、そこに初めて来られた方がどれだけ消化不良にならないか。関係者ワークショップとの絡みも大きいので、この参加者が何か協力できる方法、例えばグループのアドバイザーなど、その辺に対する配慮もご検討いただければと思う。

ファシリテーター : 関係者ワークショップ参加者がグループに入って、一緒に検討することについては知識の差があるため、良いかどうかの判断に迷う。是非、オブザーバーという形で見に来ていただき、節目節目でコメントをいただくような形で考えたい。

参加者 2 : このワークショップの参加者以外の方に、「ワークショップメンバーは分かっている」と言われた経緯がある。この道路を活用することに参加協力した中で、そのようなことを外野から言われるのは可哀相だと思う。参加者については公表しないことを前提に始まっているので、市民ワークショップにおいても慎重に取り扱いをして進めたい。

北杜市 : 市民ワークショップについても、氏名等の公表については考えていない。ただ取り組みについては広く知っていただきたいので、傍聴は可能としたい。決して道ありきの話し合いではないこと、目的については傍聴者にもよく理解していただき、プライバシーへの配慮をした上で開催したい。

参加者 3 : 今のワークショップと、15日の市民ワークショップの違いは何なのか。説明の中で、何でそのルートなんだと揉める可能性もあると思うが、その辺はどうなのか。

北杜市 : 関係者ワークショップは、それぞれの分野の専門的な知識を持った方々に密度の高い案、プランを検討していただくということで、先行して開催させていただいた。市民ワークショップについては無作為抽出で、未成年者を含む市民の方々にお声掛けしているが、それは基本的に関係者ワークショップで出していただいた意見を基に、さらに追加、補足という形で議論していただくことを考えている。関係者ワークショップのようにゼロから進めることは今のところ考えていない。

その上で関係者ワークショップでまとめたもの、市民ワークショップで追加、補足されたもの、それらを取りまとめたものを活用検討委員会の方にお諮りし、北杜市としての道路プランのとりまとめとしたいと考えている。

市民ワークショップで提供できる資料は、基本的に今まで皆さんに見ていただいた資料である。ルートについても1kmのルート帯しか市で申し上げることはできないし、国でもルートについては今後、アセス等の中で決めていくということなので、今まで見ていただいた以上の具体的な資料はない。今までの資料と、皆さんからいただいた意見をまとめた原案を市民ワークショップの資料として議論していただくことになる。

参加者 4 : 参加者がここに50名と書いてあるが、どのぐらいの人数が参加する予定なのか。

北杜市 : 今、応募をいただいた方は30名弱。内訳は10代、20代の方が10名程度、30代、50代、60代、70代の4世代の方が4~5名で、残念ながら40代の方は今回、応募がなかった。男女比は約半々という状況。特色としては高校生、20歳、21歳の参加が多いこと。場所はルート沿いの方もいらっしゃるが、市内全域から来ている。強いてあげれば長坂、高根、大泉の方が比較的多い。大人の方については1,000人に参加案内をお出ししている。

参加者 5 : 今、市内のいろんな所からいらっしゃるというお話があったが、このワークショップにも明野や武川から来られていて、現場の様子がなかなか分からない方がいらっしゃる。どんな形かは分からないが、なかなか写真だけでは伝わらないところもあると思うので、例えば現場見学会をやる、現地でワークショップをやるなど、そういったアイデアもどこかしらに取り入れられれば、臨場感を持って議論が進むのではないかと思った。

ファシリテーター : 他事例で午前中に現地をまわるようなやり方をしたこともあるが、今から組み入れるのは厳しい。映像の説明を取り入れるなど、分かりやすい説明方法を考えたい。今回の議論ではできないが、来年度にもう一度実施して、もう少しまちづくり的な話に発展させたいと考えている。そういったご意見を、その際には入れることを考えたい。

まとめ

最後に、これまでの話し合いの結果を踏まえて、道路プランに対する思いをご意見カードに書いていただきました。またワークショップのまとめ方についてもご意見をいただきました。

参加して良かった

- 関係者ワークショップも今回で最後となりました。その都度グループも変わりたくさんの方と話す機会があったこと、大きな刺激となりました。普段の生活の中では得られない専門用語を知ることが出来ました。また、北杜市の素晴らしさを再確認させて頂きました。自然環境の良さと同時に市民一人ひとりの心の豊かさが大切ではないかと感じました。
- 皆さんのたくさんの意見をまとめることは大変だと思いますが貴重な意見として今後の計画に活かしてください。WSの進め方、とても良かったと思います。ご苦労様でした。
- 道路構造について様々な前向きな意見が多く嬉しかった。細かい構造はそれぞれ意見もありましたが、全体としては「日本一走ってみたい(行ってみたい)道路」が言い表していると思う。世界に誇れる道路を造ってほしい。

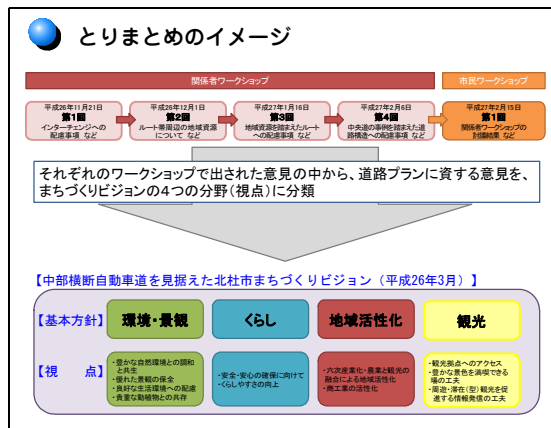
北杜市らしい道づくりを

- 一般市民が自由に入出入り出来るスマートフォンのような便利のある道であり、これに依ってお互いが潤える道が欲しいし、この道が命の道であってほしい。また、この道によって北杜市に来たくなるような自然豊かな道造りを望みます。
- 住民の安心安全に寄与する道路。主要施設にアクセス出来る道路。生活に密着した道路。ドクターヘリ発着所広場。道の駅の有効利用他。主要道路のアクセス。
- 北杜市を訪れる目的は自然、景観が主であると考えます。これを利用して観光が成り立ち、地域活性化へつながっていく。中部横断はこれを資とすることが必要です。
- 環境、景観、みどりのハイウェイ、くらし、ふるさとを豊かにしてくれるハイウェイ。
- 地域の特色を活かす、対外的なフレーズは環境や景観しか選べない気がする。

さらに議論を重ねていきたい

- 議論を重ねたワークショップの関係者一員として、地域の要望に根ざした道路形態が集約できたと感じました。関係者一同、求めるものは「唯一無二の自然(地形)」を先人が守り下さった「心」を日本に世界に紹介できるルートであって欲しい。観光振興から北杜市の活動力と若者の定住促進に寄与できると市長がおっしゃる「次世代に夢の持てる道路」とする努力を、これからも市民として作っていききたい。
- 今ある地域資源を損なわず、うまく活用ができる誇りに思えるような道路づくりに向けて、更にWSでたくさんの意見を集約して行ってほしい。ここの強みを最大限に活かせる道路になるよう望みます。
- 八ヶ岳をはじめとする四方を遠くに山に囲まれた素晴らしい地域であることを改めて認識できた。この環境を活かして道路を整備する方法を模索する工夫が必要である。出来る限りの議論を積み重ねて環境、経済、観光にプラスになる資源とする道路とすべきである。
- 2/15の市民WSが楽しみです。本日の第4回関係者WSは前半とのことですが、後半が楽しみです。参加者申込時の「申込意見書」、本日前半終了時の「参加者体験記」、今後の後半終了時の「全体感想意見」各自の三部作がまとめれば良いですね。
- 高原を走る高速道路を観光資源とするように頑張りたい。是非イベント利用が可能であり、日本初、世界初というような話題の高速道路が出来ると良いと思う。(注)道の駅も現在たくさん全国に出来てしまい、集客が下がっている所が多い為、体を健康に、体力作りを目的として首都圏よりお客様を集めたい。八ヶ岳周辺には保養所がいっぱいあるが、体を動かせる場所が少ないかも。
- ルートエリア内に近年移住、新築した方や、これから住居を建てようとしている方たちが多く見られます。この方たちの反応を危惧しております。どのように配慮していくのか、丁寧な対応をお願いします。
- 先人から受け継ぎ、次の世代に受け渡す共有財産である八ヶ岳の景観の真ん中を高速道路が通ることになります。道づくりのスタート地点として、「日本一の道路をつくる」と言われた、目標水準を明確化し、行政と市民が達成すべきビジョンを共有することが必要不可欠であると感じました。新たな基準を提案し、推進していくためにも多様な意見を認める寛容性を持った場づくりが検討委員会及び行政のミッションであらうと思います。
- せっかくのプランを活かす様な方策がそれぞれの役割分担(道路業者、行政、民間)のもと多く実現することが出来れば良いと思います。

道路プランのキャッチフレーズについて



これまでの4回のワークショップの検討を踏まえ、基本方針の「環境・景観」「くらし」「地域活性化」「観光」それぞれの道路プランにキャッチフレーズをつけました。それについて、皆様にご意見を伺いました。

事務局案

環境・景観：優れた景観や自然環境と、そこに生きる動植物や人間との共存・共生に資する道路計画

くらし：人々の安全・安心の確保とくらしやすさの向上に資する道路計画

地域活性化：地域に潤いをもたらす利便性と地域間交流の向上に資する道路計画

観光：観光拠点へのアクセス向上に資するインターチェンジの配置と景観資源の活用

「環境・景観」のキャッチフレーズ

- ◆『日本（ヤマト）』の原風景北杜市
- ◆ハケ岳とそこに生きる動植物を活かす道路
- ◆少し細長いけど、安全地帯ができました
- ◆北杜の美しさを大切にしたい道路プラン

「くらし」のキャッチフレーズ

- ◆北杜市を安全、安心に繋げる道路
- ◆生命力（イキル）、生きる場所（長寿化計画）
- ◆命（人、動物、植物）を大切にしたい道路プラン
- ◆いつまでも、どこまでも、よろしく！

「地域活性化」のキャッチフレーズ

- ◆『日本の台所』集へ腹ペコ
- ◆日本一人が集まるハイウェイ
- ◆北杜市を豊かにする道路
- ◆賑いを大切にしたい道路プラン
- ◆隣の隣がどこまでもつながります

「観光」のキャッチフレーズ

- ◆『天空の架け橋』北杜市
- ◆北杜に光る命の道
- ◆ハケ岳の裾野をキラリと輝かせる
- ◆交流を大切にしたい道路プラン
- ◆来て・みて、走って・みて、泊まって・みて

「全体」のキャッチフレーズ

- ◆マイカーで走り、自分の体で走り、健康、高原高速！！
- ◆高原ランニング、ランナー高速
- ◆速きこと風、静かなる林、進むごとく火、動かざること山
- ◆風・林・火・山の高原高速！！
- ◆誇れる自然と地域資源を活用した道路プラン
- ◆地域と景観を大切にしたい道路プラン
- ◆大自然豊かな道路（寄ってみたいくなるICを）
- ◆自然の豊かさと市民一人ひとりの心の豊かさを大切にしたい道路プラン
- ◆人と自然が輝く道路プラン
- ◆環境、景観、ハケ岳の自然と共生高速道路
- ◆ハケ岳と供にあるエコロード
- ◆大然と共に歩む中部横断道
- ◆公園道路構想が現実になりました
- ◆市民の夢を運ぶ道路プラン！！
- ◆100年かけて育てる道路
- ◆ゆっくり走りたくなる高速道路
- ◆世界一疾走ってみたい道路
- ◆歴史を大切にしたい道路プラン
- ◆交流を大切にしたい道路プラン
- ◆人と人との絆を大切にしたい道路プラン
- ◆郷土を愛せる道路プラン
- ◆心と命を守る高速道路
- ◆北杜のプライドを大切にしたい道路プラン
- ◆日本横断！！目指せ日本一の経済道

